



(参考仮訳)

プレスリリース No. 13/327

即時解禁

2013年9月6日

国際通貨基金 (IMF)

米国・ワシントン DC

G20 サミットに関するクリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事の声明

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は本日、ロシア・サンクトペテルブルクで開かれていた主要 20 カ国・地域 (G20) 首脳会議の閉会后、以下の声明を発表した。

「サンクトペテルブルクという偉大なる歴史の場で本サミットを開催したウラジーミル・プーチン大統領及びそのチームに感謝の意を表す。協議を重ねたことにより、世界経済が直面している重大な課題及び世界経済の回復の強化に不可欠な政策措置に関する G20 首脳間の対話が前進した。

G20 首脳が述べたように、協調行動が世界経済及び金融システムの安定化に大きく貢献した。同時に G20 首脳は、世界経済をより良く機能させるには多くの課題が残っていると認識している。世界成長は依然として抑制され、その根底にあるダイナミクスは変化しており、また、市場のボラティリティと安定性にかかるリスクが残っている。一部の先進国・地域のモメンタムが強まるなか、多くの新興市場国・地域は減速しており、政策当局は国内及び外部の情勢から生じる課題に対処している。また、失業率、なかでも若い世代の失業率は多くの国々で高止まりしている。

世界成長、雇用創出及び金融の安定性の促進という課題への対処に各国が追われるなか、協調行動の重要性を重視する『サンクトペテルブルク行動計画』を歓迎する。同行動計画は、財政健全化が経済情勢を反映し、金融の監督・規制で前進する必要があることを認め、成長を支える包括的な構造改革が重要であることを理解したものである。

また、今後も適当と判断される場合は金融政策で支えることが適切である。G20 は実際に非伝統的金融政策を解除する場合、秩序を維持し明確なコミュニケーションを期する必要があると認識しており、私はこれを歓迎する。先進国・新興市場国と

もに、波及効果を効果的に管理するため、国内にある課題に対処しなければならないだろう。それらの世界経済への影響は大きいことから、IMFはこれらの分野での取り組みを継続する予定である。

また、脱税及び租税回避の協議も行われ賞賛に値する前進があったことも付け加えたい。国際税務もまた、IMFが積極的に取り組むことになる分野である。

最後に、IMFの2010年のクォータ改革合意の完了に向けたG20の支援を歓迎するとともに、批准が依然として待たれる数カ国においては、この重要な合意を実現するために必要な措置を早急に承認するよう求める。同改革の遂行は、IMFのガバナンスの発展に大きく資するとともに、これが世界経済の現実をより適切に反映することにつながる。

また、10月にワシントンで開催される我々の年次総会において、このように極めて重要な課題について実のある協議が行われることを期待する」